

3 戦中の千葉市

戦時下の市民生活

昭和6年(1931年)9月満州事変が勃発し、さらに、昭和12年(1937年)の蘆溝橋事件をきっかけに全面的な日中戦争となりました。そして、昭和16年(1941年)12月8日、ハワイの真

珠湾攻撃により太平洋戦争に突入し、昭和20年(1945年)8月の終戦まで15年にわたる戦争が続きました。戦時下では防空演習などが行われました。

防空



千葉防空演習本部前の本部員 昭和7年(1932年)7月、市役所に本部が設置されました。前列左から神谷市長、岡田知事、竹内千葉衛戍司令官。



県庁北側の日本赤十字千葉支社で行われた防空演習 昭和7年(1932年)7月、市内各地で大規模な演習が行われました。(防空写真帳 昭和7年発行より)

市民のくらし



なぎなたの練習 武道が正課となり、高学年の女子は「なぎなた」の練習をするようになりました。(千城国民学校)



さつまいもの切り干しの供出作業 子どもたちは軍馬の餌にする、さつまいもの切り干しづくりを行っていました。(昭和18年[1943年]頃都町にて)



千葉駅改札に女性 戦争も激しくなってきた昭和18年(1943年)、女性の改札係が登場しました。

雑誌の表紙も時代を反映



婦人倶楽部附録
昭和13年(1938年)
9月1日号



子供の科学
昭和14年(1939年)
3月1日号



子供の科学
昭和14年(1939年)
6月1日号



写真週報
昭和19年(1944年)
6月7日号



写真週報
昭和19年(1944年)
9月6日号



写真週報
昭和19年(1944年)
9月27日号



旧千葉医大附属病院 昭和12年(1937年)4月の完成当時は、東洋一の規模を誇りましたが、戦局が激しくなると外壁に迷彩(カムフラージュ)をほどこしました。



現在の千葉大学医学部



「千葉市ゆかりの家・いなげ」敷地内に現存する防空壕(外観) 通常は、崖地に素掘りの「横穴式防空壕」でしたが、コンクリート製のもの、珍しいものでした。



(内部)



火たたき棒を肩に校庭を行進する自警団(昭和18年〔1943年〕11月)
〈写真提供:千葉経済学園〉

発行された衣料切符



〈中央区都町/露崎芳郎氏所蔵〉

配給制度施行下で衣料品が公平に分配されるよう国民に配布された切符。購入の際に代金と一緒にその品目に必要な点数分の切符を切り取って渡さなければなりません、戦局の悪化につれて店舗への供給数が極端に少なくなったことから、切符はあっても実際には購入できない状態になりました。

市内の陸軍関係の学校・施設

明治41年(1908年)6月の交通兵旅団と鉄道聯隊第二大隊の椿森移転以来、本市には、陸軍歩兵学校、気球聯隊など多くの陸軍施設が中央区(椿森、弁天)や稲毛区(作草部、天台、穴

川、小仲台、園生)の台地に集積し、その総面積は約462ヘクタール(約140万坪)に及びました。現在跡地は、学校や公園、公共施設などに利用されています。



千葉市内の主な陸軍関係施設一覧表

No.	名称等	設置年月日	所在	主な業務・沿革等	跡地の主な現施設
①	千葉聯隊区司令部	昭和6年(1931年)1月18日	中央区 椿森5丁目	・千葉県下の徴兵、動員、召集、在郷軍人の指導等を行った。 ・明治21年(1888年)5月21日「佐倉大隊区司令部」設置、明治29年(1896年)3月10日「佐倉聯隊区司令部」と改称、昭和5年(1930年)3月25日司令部焼失。昭和5年(1930年)12月21日「千葉聯隊区司令部」と改称、昭和6年(1931年)1月椿森の交通兵旅団司令部跡に移転。	財務省関東財務局千葉財務事務所
②	千葉陸軍病院	明治41年(1908年)4月1日	中央区 椿森4丁目	・傷病兵の治療にあたった。明治41年(1908年)4月「千葉衛戍病院」創設、昭和11年(1936年)10月1日「千葉陸軍病院」と改称。	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
③	鉄道第一聯隊	明治41年(1908年)6月2日	中央区 椿森2丁目 4丁目	・戦地では鉄道の建設・修理及び兵員・物資を輸送した。 平時は千葉市とその周辺で訓練をした。 ・明治29年(1896年)11月18日「鉄道大隊」として東京・牛込の陸軍士官学校内に創設、明治30年(1897年)6月28日東京・中野に転営、明治40年(1907年)10月22日「鉄道聯隊」に昇格、同年11月23日津田沼に転営。明治41年(1908年)6月2日第二大隊のみ椿森に転営、同年11月2日鉄道聯隊本部及び第一大隊の全てが椿森に転営、大正7年(1918年)5月29日「鉄道第一聯隊」になった。(「鉄道第二聯隊」は津田沼)	椿森中学校、椿森公園
④	同 材料廠	明治41年(1908年)	稲毛区 轟町3丁目	・鉄道工兵の教育、鉄道器材の修理を行っていた。 ・明治41年(1908年)鉄道聯隊が椿森転営の際「聯隊材料廠」を建設。大正7年(1918年)5月29日鉄道第一聯隊、同第二聯隊(津田沼)への改組に伴い「鉄道材料廠」として聯隊より独立、大正12年(1923年)3月末日廃止。その施設の一部を利用し、「鉄道第一聯隊材料廠」を設置。	千葉経済大学(旧材料廠) 県立千葉東高校(同都賀倉庫跡)
⑤	同 作業場	明治41年(1908年)	中央区 弁天	・演習用の作業場	千葉公園(綿打池から競輪場付近)
⑥	千葉陸軍兵器補給廠	大正12年(1923年)4月1日	稲毛区 轟町3丁目 4丁目 5丁目	・兵器の補給、鉄道器材の保管を行っていた。 ・大正12年(1923年)3月末日「鉄道材料廠」が廃止し、同年4月1日その施設の大部分を利用し「千葉陸軍兵器支廠」が発足、昭和14年(1939年)「千葉陸軍兵器補給廠」と改組、昭和20年(1945年)4月18日「東京陸軍兵器補給廠」に併合、「東京陸軍兵器補給廠千葉分廠」となる。	轟町小、轟町中、市教育センター 市立第二養護学校 千葉経済大学短期大学部 千葉経済大学附属高校
⑦	陸軍歩兵学校	大正元年(1912年)12月24日	稲毛区 天台1丁目	・歩兵の戦闘法を研究し、これを全軍に普及させる目的で設立。	作草部公園、天台保育所、 千葉少年鑑別所
⑧	気球聯隊	昭和2年(1927年)10月	稲毛区 作草部1丁目	・大正2年(1913年)所沢に「気球隊」新設、昭和2年(1927年)10月作草部に転営、昭和11年(1936年)5月「気球聯隊」と改称。	県営作草部住宅、県計量検定所
⑨	千葉陸軍戦車学校	昭和11年(1936年)12月1日	稲毛区 穴川4丁目	・戦車隊に必要な基礎的学術・通信・整備の教育及び戦車に関する調査・研究を行った。 ・昭和11年(1936年)8月「陸軍戦車学校」習志野に発足、同年12月1日穴川に移転し開校式を挙行、昭和15年(1940年)「千葉陸軍戦車学校」と改称。	稲毛区役所、県立京葉工業高校 独立行政法人放射線医学総合研究所
⑩	千葉陸軍防空学校 (千葉陸軍高射学校)	昭和13年(1938年)8月1日	稲毛区 小仲台	・高射砲術の教育を行った。昭和13年(1938年)4月四街道の陸軍野戦砲兵学校内に「陸軍防空学校創立準備室」発足、同年8月に小仲台に移転、昭和17年(1942年)8月1日「千葉陸軍防空学校」と改称、昭和19年(1944年)4月に「千葉陸軍高射学校」と改称。	小中台小、稲毛図書館 仲よし公園、県立千葉女子高校 小中台中、市立千葉高校
⑪	下志津陸軍飛行学校	大正12年(1923年)5月17日	若葉区 若松町	・偵察機教育を行った。 ・大正10年(1921年)4月「陸軍航空学校下志津分校」を印旛郡千代田村に創立、大正12年(1923年)1月若松町に移転、大正13年(1924年)「下志津陸軍飛行学校」として創立。昭和19年(1944年)6月廃校し、「下志津教導飛行師団」となる。	自衛隊下志津駐屯地(高射学校)

注1 設置年月日とは、千葉市に創設または移転した時期です。

注2 上記のほか、菅田陸軍飛行場、陸軍航空本部通信所などの施設がありました。

本表は防衛省防衛研究所戦史部の協力により作成したものです。

①千葉聯隊区司令部跡



千葉財務事務所(中央区椿森)

②千葉陸軍病院跡



(独)国立病院機構 千葉医療センター(中央区椿森)

③鉄道第一聯隊正門



(中央区椿森)

④旧鉄道第一聯隊材料廠



千葉経済学園内(稲毛区轟町)「轟町」の地名は、軍靴の音が賑やかであったところから名付けられました。(県指定有形文化財)

⑥陸軍兵器補給廠跡



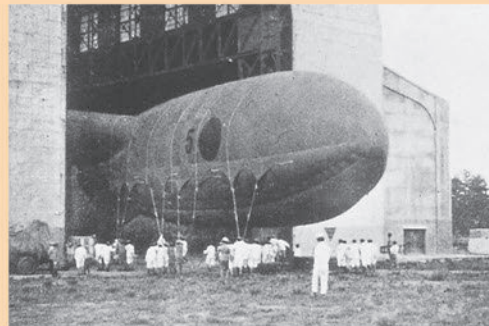
昭和40年(1965年)頃撮影(提供 千葉経済学園)
(稲毛区轟町)

⑦陸軍歩兵学校正門



(稲毛区天台)

⑧気球聯隊



第一格納庫から出る繫留気球(稲毛区作草部)



旧第二格納庫(稲毛区作草部)
※令和2年度に解体されました。
部材の一部を保存し、モニュメントとして千葉公園に展示しています。

⑨千葉陸軍戦車学校



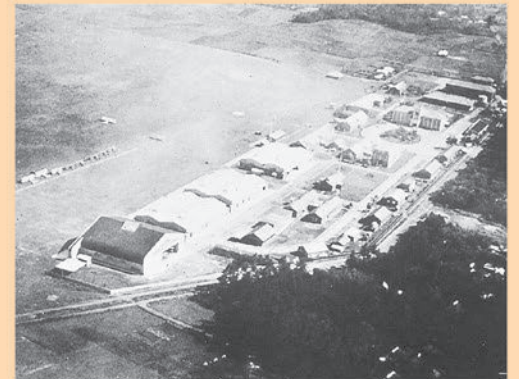
左側は中戦車A型ホイベット(イギリス製)、右側はルノーFT型(フランス製)(稲毛区穴川)

⑩千葉陸軍防空学校
(千葉陸軍高射学校)



正門(稲毛区小仲台)

⑪下志津陸軍飛行学校



現在、自衛隊下志津駐屯地(高射学校)となっています。(若葉区若松町)